



No.166

ウトナイ湖通信

2018年3月号

ウトナイ湖野生鳥獣保護センター 発行

トピックス

世界湿地の日記念で「クラフト体験」と「冬を楽しむミニツアー」を開催

毎年2月2日は「世界湿地の日(World Wetlands Day)」。湿地保全のための「ラムサール条約」が1971年のこの日に採択されたことを記念するもので、世界各地で本条約の意義や湿地の自然について広く伝える活動が行われています。

ラムサール条約湿地のウトナイ湖でも、当センターで記念イベントを開催しました。環境省によるクラフト体験には親子連れの皆さんが多く参加し、また当センター主催のミニツアーでは、雪に残る動物の足跡、冬芽、氷上にたたくオオワシなど、冬の湿地の自然を楽しんでいただきました。



木の枝などで写真フレームを作ったクラフト教室



ミニツアーではツルウメモドキの実などを紹介した

ガンはいつやって来る？

宮城県などで冬を越していたマガンは、繁殖地のロシアに向かう途中、例年だと2月中にウトナイ湖で第1陣が確認されます。いわば春を告げる鳥。昨年は2月15日が初認日でしたが、今年は本日(23日)現在、まだ渡って来ていません。

寒く、雪の多いこの冬。氷が解けるのが例年より遅くなり、それに伴ってマガンが北上して来るのも遅れそうです。気になるのは、いつ最大羽数となるか。例年は3月20日ごろとなるピークが、1週間ほど遅くなるのではとレンジャーNは予測しています。



雪と氷におおわれた、2月23日現在のウトナイ湖



一昨年は、渡りのピーク時にこんな光景が見られた



マヒワ

【自然観察路情報】

2018年2月8日(木) 10:00~12:00

観察された生きもの

《野鳥》

オオハクチョウ、トビ、オジロワシ、オオワシ、ノスリ、オオアカゲラ、カケス
ハシボソガラス、ハシブトガラス、シジュウカラ、ヒヨドリ、エナガ、キバシリ
マヒワ、ツグミ、ホオジロ



エナガ



カケス



ツグミ

《植物》

ツルウメモドキ、カラコギカエデ(以上、実やタネ)
キタコブシ、エゾニワトコ(以上、冬芽)、ミズキ(赤い枝)



カラコギカエデの実

《その他》

キタキツネの足跡、エゾリス?の古巣、ミヤマカラスアゲハまたはカラスアゲハのさなぎ



キタキツネの足跡

【水鳥カウント調査結果】

2018年2月8日(木) 15:00~16:00

観察された水鳥、ワシ・タカ類 *()内は個体数

コブハクチョウ(3)、オオハクチョウ(13)、オカヨシガモ(1)、ヨシガモ(7)
マガモ(10)、ホオジロガモ(8)、ミコアイサ(2)、カワアイサ(10)
トビ(3)、オジロワシ(1)、オオワシ(1)、ノスリ(1)




ホオジロガモ





オオワシ



3月の自然予報


 ガン類のほかにも様々な水鳥たちが見られるでしょう。
カモ類だけで1日に15種を観察することもあります。


 オオワシやオジロワシも数が多くなります。氷上や樹上で休む様子が見られるでしょう。


 野鳥によっては早くも繁殖期を迎え、シジュウカラの力強い「ツッピー、ツッピー」、ハシブトガラスの柔らかい「フィーフィー」というさえずりが聞かれるでしょう。



早くもさえずりが聞かれるシジュウカラ

 湖周辺ではハンノキの雄花の穂が伸び始め、地面にはフキトウが顔を出します。

 雪が少なくなるにしたがって、動物の足跡も見られなくなります。今がラストチャンスです。

 水たまりにはエゾアカガエルの卵塊が見られるでしょう。



雄花の穂を伸ばしたハンノキ

【ゴジュウカラ】

春先に周辺の林から聞こえる「フィー、フィー」「フィフィフィ」という甲高い声は、この鳥のさえずり。キツキ類が開けた穴などを利用して子育てをします。名がよく似たシジュウカラとは異なる仲間で、頭を下にして幹を下りるなど、特徴のある動きをします。ウトナイ湖周辺では1年を通して見られ、木の実や昆虫を食べます。



ウトナイ湖に関するクイズ。
毎回、その月にあわせたテーマで出題しています。
あなたもウトナイ博士になれる？かも。

Q. これは3月に撮影した「エゾノバッコヤナギ」の枝先です。さて、写っている白い綿毛状のものは、何でしょう。

- (あ) 雄花。つまり、これから花粉を飛ばす
- (い) 雌花。つまり、これからタネができる
- (う) 新芽。つまり、これから緑の葉が出てくる



☆ヒント☆

エゾノバッコヤナギの木には雌雄があり、写真はオスの木です。

答えは最後のページにあるよ。

傷病鳥獣ルームから



当センターでは、国指定ウトナイ湖鳥獣保護区とその周辺（苫小牧市行政区域内）において人為的な原因で保護された傷病鳥獣の救護・リハビリを行っています。その活動の一端をみなさまに知っていただくコーナーとして、ここでご紹介いたします。

トラフズク

2017年 11月 20日 噴れ

苫小牧市内でカラスに襲われていたところを市民が発見

体重 260g

—診察中—



11月20日 14時30分頃、当センターへ搬入。

↓
明らかな外傷は認められなかったが、くちばしの付け根に出血跡あり。呼吸時に若干の捻髪音ねんぱつおん（パチパチ・バリバリ音）があったため、呼吸器の損傷も疑い、念のため安静処置とする。

↓
11月21日 捻髪音もなくなり、飛翔も確認できたため、リリースに至る。



—経過観察中—

トラフズク（フクロウ目フクロウ科）

体長38cmほどの中型のフクロウで北海道には夏鳥として渡来します。マツ類などの常緑針葉樹の大木をねぐらとし、ネズミ類や鳥類を捕食しながら生活しています。繁殖期では、タカ類やカラスの古巣や樹洞に産卵し、時に地上営巣も行うといわれています。ねぐらに敵や人が近づくと、体を伸ばして傍らの木の一部に擬態します。

イベント情報

自然案内ボランティア講座 ～水鳥のことを伝えよう～

日時：3月11日(日) 10:00～14:00

対象：高校生以上

定員：申込み先着10名(3/1から受付開始)

内容：水鳥をテーマとした自然案内(来訪者に自然のことを伝える)プログラムを体験します。



ウトナイ湖・春の渡り鳥ウォッチング ～水鳥たちの姿を楽しもう～

日時：3月18日(日)13:00～15:00

対象：どなたでも

(小学生以下保護者同伴)

定員：申込み先着20名(3/1から受付開始)

内容：この時期にウトナイ湖を經由して繁殖地へと向かう冬鳥一特にカモ類やハクチョウ類といった水鳥、オジロワシやオオワシなどを観察します。これらの多くは動きがゆったりとしており観察しやすく、バードウォッチング初心者の方にもおすすめです。



市民ギャラリー

苫小牧の自然写真展

日時：3月7日(水)～3月29日(木)

展示：苫小牧市環境生活課



タンチョウイラスト展

日時：3月13日(火)～3月31日(土)

展示：(公財)日本野鳥の会

鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリ



◆ウトナイ湖◆

周囲約9km、面積約275ha、平均水深約0.6mの淡水湖です。

鳥類はこれまでに約270種が確認され、ガン・カモ・ハクチョウなどの渡り鳥にとって重要な中継地、越冬地となっています。このためウトナイ湖は、国指定鳥獣保護区特別保護地区、ラムサール条約湿地、東アジア・オーストラリア地域渡り性水鳥重要生息地ネットワークに指定、登録されています。

◆ウトナイ湖野生鳥獣保護センター◆

環境省が「野生鳥獣との共生環境整備事業」により建設し、苫小牧市と共同管理する施設です。

また、苫小牧市が業務の一部を(公財)日本野鳥の会に委託しています。

【利用案内】

〒059-1365 苫小牧市植苗156-26 TEL. 0144-58-2231 / FAX. 0144-51-8600

入館無料 / 開館時間：午前9時～午後5時 / 休館日：毎週月曜日(祝日の場合は翌日)及び年末年始

